

出張報告書

令和6年3月19日

市議会議長 様

会 派 名 にじの会

代表者氏名 殿本 マリ子

下記のとおり報告します。

記

- | | | |
|---|-------|----------------------------|
| 1 | 目 的 | 第18回全国市議会議長会研究フォーラム in 北九州 |
| 2 | 出張先 | 西日本総合展示場 |
| 3 | 出張期間 | 令和5年10月25日～令和5年10月26日 |
| 4 | 出張者氏名 | 高比良正明 |
| 5 | てん末報告 | 別紙添付 |

全国市議会議長会研究フォーラムは、2006 年日比谷公会堂から始まり、以後毎年全国持ち回りで行われる大規模研修会で、全国の市・特別区議会議長及び議員らが一堂に会し、共通する政策の課題について意見交換などを行うもの。

今回は市制 60 周年の北九州市での開催で約 2400 人の参加であった。

全員が合同で聴講するセミナー形式であり、分科会的なものがないばかりか、開場でも椅子のみで机もなく、開場入り口に設置された記念パネルで写真撮影を多くの参加者がしていたのを見ても、慰安的に参加しているのではないかと疑われても仕方がない、平たく言えば JTB、地域のホテルなどによる儲け口に主眼が置かれているイベントであった。

飲食店においても大会開催を歓迎するポスターが張られている店があり、それにあざとさを感じた私は、そのような店でなく、できるだけ地元の人が利用するようなラーメン店などの飲食店を利用した。

私もそれらの参加者と同列に扱われないよう、報告書を作成する。

会場に近い小倉駅でも垂れ幕などで本大会のお知らせがなされ、地元 TV でも、その開催がニュースで報じられているだけでなく、小倉城周辺では市民が中心となり、放置竹林の竹を活用して作られた竹灯籠が小倉城・虎ノ門および周辺エリアに飾られ、幻想的な空間が楽しめる小倉城竹あかりの特別点灯、障がい福祉サービス事業所の取り組みを知っていただくとともに、障がいのある方の工賃アップや社会参加の促進を目的として、市内の障がい者就労施設で作られたパン、菓子、雑貨、野菜等を小倉駅改札前の JAM 広場で販売する

NUKUMORI マルシェ、少し離れた場所でも歴史的建造物や船だまり周辺のライトアップとコラボレーションし、門司港レトロ一帯が淡く

輝く約 30 万球の幻想的な光に包まれる門司港レトロ浪漫灯彩、若松区の高塔山展望台で、若戸大橋を背景に、額縁タイプの写真撮影ポイントを設置している夜景観光スポットを設定するなど、街をあげて我々全国からの参加議員を歓迎頂いている。

大会当日、また終了後にも 14 の視察コースが設定されており、

A「既存事業の磨き上げと再整備による観光名所化の取り組み」

ケーブルカーとスロープカーを乗りついで到着する標高 622m

の山頂にある展望台から市内を一望でき、眼下に広がる景色は、“100 億ドルの夜景”と呼ばれ、「日本新三大夜景都市」のランキング 1 位として認定され、北九州市の夜景スポットとして真っ先に名前が上がる皿倉山

「河童の隠した宝石箱」とキャッチコピーが付けられ、日本夜景遺産[®]に認定され、山頂にある展望台から眺める夜景は、北九州市のシンボルである若戸大橋や響灘、皿倉山はもちろん、多彩な工場夜景も見もので、中世には大庭隠岐守景種が築いた山城があったと伝えられている標高 124m の高塔山公園

B「海岸線の工場群を活かした観光誘客への取り組み」

海岸線のほとんどが工場で占められ、全国屈指の工場地帯である北九州市の工場の明かりが煌びやかに放たれている姿をクルーズ船に乗り、海上へ出るとその幻想的な明かりをより間近に感じる工場夜景クルーズ

C「既存事業の磨き上げと再整備による観光名所化の取り組み」

高塔山公園

D「世界に誇れる技術を有する北九州産業」

産業用ロボットなどの最先端技術がつくり出す、ものづくりの楽しさと凄さを体験することができる安川電機みらい館

1917年の創立から現在に至るまでの歴史の紹介と、1964年にホテルニューオータニへ納入した日本初となるユニットバスルーム（JIS 規定による）など、約 950 点展示している TOTO ミュージアム

E『深い歴史を持つ製鉄のまち八幡と北九州産業』

2015 年世界遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産の一つとして、戦時中は植民地労働者を炭鉱同様に使い捨て、殺害してきた官営八幡製鉄所旧本事務所

同様に 1901 年の官営製鉄所操業開始以来、負の歴史を刻んできた日本製鉄九州製鉄所

「歴史を映し出す地図の紹介」というコンセプトのもと、2020 年にオープンし、厳選した地図と史料、約 120 点を展示しているゼンリンミュージアム

F「歴史資源を活かした中心市街地活性化によるまちづくり」

大正初期に始まり、100 年以上の歴史を誇る“北九州市の台所”であり、2022 年、2 度の火災で傷ついたが昭和ムード漂う市場には現在も約 100 店が軒を連ね、地元産の海産物や野菜などを販売し、復興に向けて歩みを進めている旦過市場

1602 年、細川忠興公が築城し、4 階より 5 階が大きい天守閣の「唐造り」が特徴の小倉城・小倉城庭園

2022 年に誕生したミュージアムで活気にあふれた戦前の明治後期から、八幡の大空襲をはじめとする戦争について、復興へと歩み 5 市合併に至るまで、北九州が歩んだ歴史を知ることができる平和のまちミュージアム（ここでは視察中の参加議員と遭遇した。館長は、戦争を後押し

したのは隣組や、相互監視と経済統制の性格を徹底した、常会とよばれる定例会、国防婦人会といった市井の人たちであったと、展示から知ってくださいと、良心的な話をしていた)

G「魚町銀天街での SDGs 推進への取り組みと北九州市の創業支援への取り組み」

且過市場まで約 400m 続く通りで、「雨が降らない街を作りたい」。その思いが形となり、1951 年、全国で初めてアーケードができた魚町銀天街

小倉駅新幹線口近くの AIM ビル 6 階にある創業支援施設「北九州テレワークセンター」を国内最大級のコワーキングスペースとして、2018 年リニューアルオープンした COMPASS 小倉

H「関門海峡の自然資源を活かした観光誘客への取り組み」

「関門海峡をまるごと楽しむ体験型博物館」をコンセプトに、子どもから大人まで楽しめる、関門海峡ミュージアム

関門海峡を繋ぐ全長 780 メートルで、上は車道、下は徒歩で通行できる関門人道トンネル、北九州市を代表する観光地として、九州の北端瀬戸内国立公園内に位置し、急流が渦巻く関門海峡と対岸間近に本州を望むことが出来る和布刈公園

I「『門司港レトロ』を活かした観光誘客への取り組み」

1889 年に開港した、九州最北端に位置する国際貿易港として、周辺に建てられた海運会社や商社などの西洋建築物やアインシュタインが宿泊した迎賓館「旧門司三井倶楽部」を保存、公開し、当時の佇まいをシンボリック存在の門司港駅をはじめとして修復、復元した門司港レトロ地区

1931年に建造され、現存する木造3階建ての料亭の建屋としては九州最大級の規模で、館内には、三宜楼と門司港の歴史が分かる展示スペースがあり、出光佐三や高浜虚子など料亭を利用した人物なども紹介され、2014年にリニューアルオープンした三宜楼

1924年に「逓信省門司郵便局電話課庁舎」として建てられた建物は、放物線アーチと垂直線を基調としており、洗練された大正モダンを今に伝えており、電話機のうつりかわりや自動交換機など、明治から平成に至る電信電話の貴重な史料が展示されている門司電気通信レトロ館

J「黒崎・折尾エリア 地域資源を活かした観光誘客への取り組み」

松並木は当時幕府が全国の街道に松や杉を植樹させた名残で、1945年頃まで黒崎から木屋瀬にかけて街道には多くの松を残して（現在は幅20～30m、長さ約310m、面積約8000㎡）、現在は旧街道緑地として整備されて市指定史跡である曲里の松並木

江戸時代に長崎街道の筑前六宿の一つとして栄え、今も古い町並みを残して、当時の雰囲気を感じられる木屋瀬宿、記念館内の「みちの郷土資料館」では、歴史への旅体験をテーマとして、江戸時代から明治・大正・昭和にわたって、街道と宿場、当時の暮らし、炭鉱、木屋瀬に密着した文化を体験しながら見ることができる長崎街道木屋瀬宿記念館

筑豊線と鹿児島線が交わる国内初の立体交差駅だった歴史を伝えるため、駅構内の床に線路跡を表示し、「折尾地区総合整備事業」の一環として、外観は旧駅舎が完成した1916年当時を再現した新駅舎が建築されている折尾駅

K「若松エリア 地域資源を活かした観光誘客への取り組み」

地域の農水産業の振興、都市と漁村地域の交流施設として核として、物産館のほか、レストラン、ミニコンサート・結婚式場などに使用でき

るコミュニティーホールからなるフィッシャーマンズワープ「SIOIRI」

江戸時代には、密貿易船や難破船、外敵等の異変に備えるため、遠見番所が設けられ、真っ白な「妙見埼灯台」が立つ断崖からは、刻一刻と色合いが変化する海、沖の島々、浸食で芸術的な模様となった岩肌などの自然を感じることができる遠見ヶ鼻

高塔山公園

大正期の建物群を中心とした近代港湾都市固有の帯状の都市空間で、石炭景気に沸いた若松の歴史と発展を伝えるとともに景観的にも非常に優れた地域で、国内唯一現存するバンドのオリジナルな景観を残す港湾都市若松にあり、海岸沿いの散策の場として良好な歩行者空間が形成されている若松南海岸通り

L 都市と自然との共生するまちづくり

「水・緑・そして動物たちとのふれあい」をテーマに、4ha もの広大な芝生広場や、熱帯植物園、ポニー広場、サイクリングコースなどを整備する市内最大の公園として、約 400 種、2,700 株のバラが咲き乱れ、春と秋は多くの人で賑わうバラ園を目玉施設とする響灘緑地（グリーンパーク）

廃棄物の埋め立て後にできたデコボコの地形が生んだ湿地や池、草原などの多様な環境を生かし整備されており、観察デッキからは、湿地に生息するさまざまな水生昆虫や植物を間近で観察することができる響灘ビオトープ

2019 年 3 月にリニューアルし、紫川に生息する生物や紫川の河川改修の歴史や、観察窓では淡水と塩水の境界がゆらめく「塩水くさび」の様子が観察できる水環境館

M 北九州市の多様な文化施設と カルスト地形を活かした観光誘客へ

の取り組み

ゾウやキリン、ライオンなど約 80 種 470 頭羽の動物たちが暮らしている「動物ゾーン」は、できるだけ檻をなくすことで、動物の生息地に近い環境を整備し、自然な姿を観察でき、自然や動物とのふれあいを通して学習する自然環境教育施設として市民に愛される緑豊かな到津の森公園

世界的な建築家・磯崎新氏が設計し、双眼鏡の鏡筒のような、ユニークな外観が印象的で、建物は市街を見渡せる丘陵に建ち、敷地内展望デッキは市街地が一望できる北九州市立美術館

西日本最大級の規模を誇る自然史・歴史博物館として、「いのちのたび」をコンセプトに、全長約 35m のセイスモサウルスやステゴサウルスなど、骨格標本がズラリと並び、来館者が楽しみながら学べるエンターテインメント性の高い展示が人気を集めている、いのちのたび博物館

2022 年、スペースワールド跡地の「THE OUTLETS KITAKYUSHU」内にオープンし、国内最大の大型竜巻発生装置をはじめ、科学の不思議を体験・体感できる展示や、国内最大級のドーム径 30m、最新鋭の投影機器で満点の星に包まれるプラネタリウムなど見どころが満載のスペース LABO（北九州市科学館）

「北九州から世界へ」をキーワードに「こどもたちの未来に寄与する英語体験」を可能にする西日本初となる英語教育体験型施設として、いつもの学校や教室から抜け出し、日本にしながら非日常な空間の中で海外の雰囲気の中で英語だけの世界に浸ることができる KITAKYUSHU GLOBAL GATEWAY（北九州英語村）

皿倉山

日本三大カルストのひとつに数えられ、天然記念物・国定公園・県立自然公園の指定を受けており、標高 300～700m、南北 6km、東西 2km にわたり石灰岩が点在する一帯はトレッキングコースとしても人気

が高く、自然が生んだ珍しい 風景にも出会える平尾台

農業振興施設として、農作物の試験栽培、「小倉牛」の展示飼育、就農研修等を行い、梅やバラなど季節の花や動物とのふれあいを楽しむことができる花農丘公園（北九州市立総合農事センター）

N「環境未来都市」 北九州市の取り組み

環境未来都市に選定された、エコ事業が盛んな北九州市若松区の北側、響灘地区には沢山の企業や研究施設が集中し、環境研究やリサイクル事業を行っており、その中央に位置して、エコタウンや次世代エネルギーパーク の紹介やリサイクル工場、風力発電施設などの見学ツアーの案内などを行っている北九州市エコタウンセンター

全国 24 場あるボートレース場でもナイトレースが楽しめる 7 場のうちの一つで、レース観戦以外にもボーネルンドの知育玩具を揃えた「わかわくらんど」やプロジェクションマッピングによるアトラクションを完備した「ボルダリングパーク（レッド・ロック）」など子どもたちも楽しめる場所もあり、市民の交流の場として活用されているボートレース若松

1910 年に創業し、良質な天然油脂を原料に昔ながらのケン化法で約一週間かけて、肌と環境にやさしいこだわりの石けん作りで、現在では全国有数の無添加石けんメーカーに成長しまっているシャボン玉石けん

高塔山公園

SDGs 未来都市として、地域環境問題に積極的に取り組む港づくりを行っている北九州市として、2011 年から広大な産業用地と充実した港湾施設を有する若松区響灘地区で、風力発電などのエネルギー関連産業の集積を目指す「グリーンエネルギーポートひびき」事業が進んでおり、その一環として現在、響灘沖に日本最大級の本格的ウインドファームを建設中の響灘洋上風力関連施設

洋上サバイバル訓練を世界標準に則って提供している国内初の施設で、世界の海で活動する人々が事故に直面した時、冷静に判断し、行動できる能力を身につけ、自己の生命の安全を守り、世界の海洋産業の継続的かつ健全な発展に貢献することを目的とする本格的な総合訓練施設、日本サバイバルトレーニングセンター

M、Nは1泊2日の行程となっている。

Nコースには、高比良の友人である竹村克司下関市議、旧知の堀口陽一泉大津市議会議員が参加しており、後日話を聞き、日本サバイバルトレーニングセンターへの視察を予定するに至った。

また、ボートレース若松についても、ナイターレースを視察に行った田畑庄司大阪府都市競艇組合議会議員、食野雅由、出原秀昭の貝塚市議、中藤大助泉佐野市議から話を聞いた。

<次 第>

13:00～13:15 開会式 主催者挨拶 全国市議会議員会会長 坊 恭寿

開催地挨拶 北九州市議会議員 田仲 常郎

来賓挨拶 北九州市長 武内 和久

13:20～14:20 基調講演「躍動的でワクワクする市議会に（と期待）」

講師 大正大学教授兼地域構想研究所長 片山 善博

鳥取県知事という経験から、人口減少社会の到来などにより地域が厳しい課題に直面する中で、地方議会の役割がますます重要になっていること、地方議会を取り巻く環境が変化していることなどを踏まえ、議会としてどのような視点が必要であるかというテーマが話された。

地方自治法の一部改正により地方議会の役割及び議員の職務の明確化が図られた。

これまで以上に議会の重要性が増すのに反し、統一地方選挙の状況を見ると投票率の低下や無投票当選など議会の存在感が薄れていることは否めないとして、JIAM で北川正恭元三重県知事よりはマイルドだったが、喝を入れられた。

○地方議会をめぐる現状とこれまでの地方議会改革の検証

地方政治において、市民の声を聞き、活かしているのかと問うのが議会改革。

議会基本条例を制定していても、住民の注目が集まるなどの変化はなく、体質、仕事のやり方、風土を変えないと変わらない（これは自治体DX も同じ）。

○日本の地方議会に欠けていることは何か

現在の市議会を住民目線を見た時に本来の機能が（要素）が欠けていると言います。決定機関の要素としてかけているものは以下の3点

- ・ 議場での公開の場での真剣な議論

特に議案について、予算案が無傷で通る出来レースが当たり前になっていれば、変わることはない。

市民にとっては公に出てきた時が勝負なので、裏でやっていることは市民からは見えない。

議場で公開の場で真剣に議論して物事を変えていくことで緊張感を持ち、ハラハラしたり興味を持つ、面白ければ議場に来る。

鳥取県知事時代、何度も修正案が議会から出された。

これで施策がよくなり、ありがたかった。

千葉県我孫子市長を 3 期務めた福嶋浩彦氏は、就任に際して「既得権をなくし、公正で透明な行政を行う」と宣言し、在任中は「市民自治」を提唱。

「〈市民の自立した活動〉と〈市民がコントロールする行政〉による市民自治」を目標に掲げ、市が民間に出す補助金をいったん全て白紙とした上で、新たに市民検討委員会制度を導入、市職員採用に際して、試験委員に民間人を登用、地域住民が共同で公園を整備・管理する「市民手づくり公園事業」の実施等を行ったが、12 年にわたる市長生活の中で、修正案が出されなかったのは数回と話しています。

・ 固定資産税・住民税の税率など税の議論をほとんどしない（全くないわけではない。例えば夕張では住民税を上げているが、破綻自治体は例外である）

お金がないなら一時的に市民の了解を得て、税率（固定資産税は大体 1.4%、市民税は 6% 実は根拠なし）を上げればよい。

その考えがないから思考が閉鎖的で、思考停止になっている。

本当に必要なものに充てるために、固定資産税 1.4% を 1.5% に上げる議論をするのが地方議会であり、必要なものに充てたらまた 1.4% に元に戻せばよい。

しかしまずは予算をしっかりと精査すること。

よく見ればどうでもいい予算はゴロゴロしているので、いらぬ予算を議会が判断し修正するのが大前提。

③住民の声が聴こえない 住民の発言機会がほぼない（欧米と比べると）

アメリカの例：予算がないので図書館の予算減らして分館を閉鎖し時間も短縮する。

審議前に住民の声を議会が聞く。

片山氏が心打たれた例：移民の市民が、「良きアメリカ人になろうと思って学んだのは図書館でお世話になった。自分の故郷の新聞もある」、「MORE BOOKS」というプラカードを掲げて「子どもが分館をよく使っている」と活動した。

高齢者は逆に「年金生活で増税はやめて欲しい」と訴えた。

その結果、議案は取り下げになった。

予算については、議会の委員会提案で予算の増額修正を行い、財源は、固定資産税（財産税）を5年間上げて賄うとの提案が実現した。

これぞ議会の姿で、関心の渦中に議会があると示した。

地方議会は、税率の議論を、議案を市民と共に考え可決後、また議案審議へと戻るサイクルを繰り返せば、真剣な議論になり市民の興味関心も湧いてくる。

「議会（市民の声の反映）で結論が変わらなければ、市民は議会に関心を持たない」

○現行の議会の権限を活用してもっと積極的に取り組むべきこと

○議会の常識と市民の常識をすり合わせる—市民が首を傾けることとは重要なのはもっと議案を丁寧に審議すること。

執行部の議案を鵜呑みにせず裏を取る作業をしていく（ここで執行部は嘘までつかないが、上手に本質を逃していくので、裏を取り、それらを見ぬいていく）。

「市長提案の議案をうのみにしない」

例示：中学校の統廃合

委員会で教育長の「反対」する答弁と齟齬が生じている。

委員会に保護者を呼び、当事者の声を聴いてもらう。

住民に傍聴してもらう。

国会の真似をした公聴会で、日当や人数制限をするな！

市民の声を聴く場（例えば議会がアンケートを行うなど）を条例や規則で認めよ。

地方自治は住民との距離が近いので意見を取り入れやすいはず。

参考人招致的運用をすることによって、一つの議案を市役所からの視点だけで捉えるのではなく、関係各位の様々な視点に基づき判断をすれば、市民も議会に興味を持ち、市民を主役にした街づくりの一助になるのではないか。

例示：町名変更→議会がやれと言ったのにアンケートをやらないままで可決してしまった。

行政がやらないのであれば議会がやればよい。

教育委員会にもっと目配りを！！

教育（特に義務教育）は国家の最重要の行政課題だが、学校はブラック職場で、現場は疲弊している。

いじめ、不登校、教員多忙化、成り手不足、定数減等によって、学校はブラック職場であると学生の中で共有されており、良い人材が集まりづらくなっている。

教員の職場の管理は設置している県の教育委員会で、県と相談することで、仕事を減らし、教員を増やす等できるはずだ。

鳥取県内では、独自財源で県と市で財源を折半し、独自の教員を雇用し、30人学級を実現した。

民間であれば社外取締役のようなもので、市長の任命責任を最終決

断するのは議会なのだから、教育委員を審議時に議会へ一人一人呼んで吟味し、教育委員になる、常識、責任感、時間的余裕があるのかなど責任を問え。

○今、振返って議会に感謝していること

鳥取県は女性管理職割合がダントツ 1 位。

それには 2000 年にという男女共同参画推進条例を県も議会も提起し、議員立法で作った経緯がある。

「委員も 4 割 6 割」と決めている。

男性の育児休業取得もトップ。

商工労働部長の妻が議会中に出産し、育児休業をとった。

知事が議長に「休ませて」と言うと、議長は「次に出てきたら部長に体験談を議場で報告させろ」と条件を付けた。

部長は「家事が大変とわかり、生活者として革命となった」と話し、それが報道されとことで注目され、効果が出た。

先進例：

八戸市では、スーパードクターが病院を黒字に転換し、一般会計に繰り入れられるようになった。

八戸市立市民病院は 2023 年 9 月 21 日、2022 年度決算の概要を発表しており、事業収益から事業費を差し引いた純利益は 12 億 4800 万円で、14 年連続の黒字を達成し、利益余剰金も 3 年連続計上している。

これは診療所となった旧夕張市立病院を経営改善した村上智彦医師とは異なる手法で、本市でも研究すべきである。

14:40～16:40 パネルディスカッション「統一地方選挙の検証と地方議会の課

題」

コーディネーター 日本経済新聞編集委員 谷 隆徳

パネリスト 西南学院大学法学部教授 勢一 智子

近畿大学法学部教授 辻 陽

Stand by Women 代表・女性議員のハラスメント相談センター共同代表 濱田 真理

北九州市議会議長 田仲 常郎

谷：

統一地方選について、投票率は過去最低（41 都道府県議選 41.85%、294 市議選 44.26%、373 町村議選 55.49%）で、無投票当選は 2052 人（都道府県 565 人 25%、市 237 人 3.6%、町村 1250 人 30.3%）にも上った。

中でも大きなトピックとなったのは、定数割れが起こった長野県岡谷市で、説明会の時点では 5 人欠員の状態であった。

21 市町村（岡谷市、町村 20 北海道興部町では 2 回連続で、定員を 10→9 人としたが、ダメだった）で定員割れ（前は 8 町村）。

しかし女性議員は 22%（都道府県 316 人 14%、市 1457 人 22%、町村 632 人 15.4%）となって増加したり、宝塚市 53.8%14/26 人、千葉県白井市では全国最多 56%10/18 人と過半数を超える議会もある。

立候補休暇法が議員立法で成立し、年間 300 万円未満であれば、自治体の仕事を請け負っていても議員との兼業を認めること（この緩和は半世紀ぶり）、選挙に立候補しやすくするため、政府が事業主に対して「立候補休暇」を就業規則に盛り込むよう促すことも明記され、ポジティブなこともある。

勢一 智子

人口構造の変化の見通し

2040 年には、団塊の世代(出生数 267.9~269.7 万人/年→80.4 万人 91~93 歳)及び団塊ジュニア世代(出生数 200.1~209.21 万人/年→182.7 万人 66~69 歳)が高齢者となる。

全人口の 3 人に 1 人が高齢者となり、人口ピラミッドはいわゆる棺桶型になる。

投票率は、人口が多い年代ほど投票率も高く、投票率が下がれば、無投票率も上がり、定員割れにつながっている。

地方議員の概況としては、専業(都道府県県会議員 53.5%、市区議会議員 47.2%、町村議会議員 23.8%)、農業・林業(7.9%、10.5%、27.9%)、卸売・小売業(4.1%、5.6%、6%)、建設業(4.2%、3.9%、6.4%)、製造業(3.9%、3.4%、2.7%)であり、独立行政法人労働政策研究・研修機構による産業別就業者数(男女計、就業者数計=6747 万人、2023 年平均)によると、製造業 15.6%、卸売・小売業 15.4%、医療・福祉 13.5%、建設業 7.2%で、議会が「住民の鏡」でなく、偏っていることがわかる。

これは男女比(8 割以上が男)、年齢も同じく。

第 33 次地方制度調査会「多様な人材が参画し、住民に開かれた地方議会の実現に向けた対応方策に関する答申」では、

議会についての現状認識と課題

- ・地域において合意形成が困難な課題が増大することが見込まれる。
- ・個々の住民の利害や立場の違いを包摂する地域社会のあり方を議論する議会の役割がより重要となる。

とあるが、現実にはそのようになっていない。

議会の位置付け等の明確化

・住民との議論も重ねながら、地域の実情に応じて、議会の目指すべき姿を明確化

- ・議会の目指すべき姿が議会基本条例などの形で定められる
- ・議会や議員がそれぞれ ぞれの立場において、その重い役割や責任を自覚する
- ・議会の役割・責任、議員の職務等について、その重要性が改めて認識されるよう、全ての議会や議員に共通する一般的な事項を地方自治法に規定する。

議員は、議会の権限の適切な行使に資するため、住民の負託を受け、誠実に職務を行わなければならないことを規定することが考えられる。

この際、特に、議員に関する規定は、職務を行う上での心構えを示すものであり、新たな権限や義務を定めるものではなく、本来の議員の職務以外の不適切な行為を正当化し、助長するようなことにならないよう、十分留意すべきである。

なので、このように念押しされていると自覚せねばならない。

行政法ゼミを主宰しており、9割が公務員ゼミ生でもあるが、議員にはなりたくないと言う。

若者がなれない職種と認識されている。

人口減少社会に向けて、地域の将来像を描き、それに向けて限られた地域資源の投資先の厳選が議会に求められる。

選択基準は地域の持続性、こころ豊かな暮らし。

これは高度成長時代（金や仕事）の価値観でなく、若年世代、将来世代を含み多様性に富む主体参画が必要。

多様な人材の議会への参画

議員の多様化は、過少代表の是正につながる（議会のカフェトークによる子育て世代や学生の参加）。

主権者教育では、18歳でできる様な基礎知識を身につけること。

労働→議員→労働へと戻ることができる社会（社会経験が活きる議会、議会経験が活きる社会）でないと、議員の成り手は増えない。

転職感覚で地域課題を解決したいと議員になれる社会にするためには、厚生年金等の問題がある。

辻：

- ・「議会活動が見えない」は、深刻化している。
- ・議員厚生年金加入は進めるべき。
- ・無投票議会は、住民の負託を受けているとは到底言えない。
- ・多様な地方議会

日本の地方議会での主張は、「人口規模に応じて多様な執政制度の選択を可能に」

同じ市といえど、人口370万人の横浜市から1万人を切る市まで多様、議員報酬の額も月額20万円を切る議会まで多様。

人口規模が大きな自治体では、議員報酬だけで生活でき「専業化」できるが、そうでない自治体は「兼業」しないと生活できない。

しかし、実際問題として議員報酬を増額することは困難で、小規模自治体ほど財政力指数も小さく、一般会計に占める議会費の割合が大きい傾向にある。

政策調査や立案をサポートする議会事務局員の職員数も、人口規模

が小さいほど少ない

議員としてやりがい直結する政務活動費の額も、小規模自治体は少ないか不支給。

二元代表制の理想は、議員も専門化の環境を整えること。

結論として、小規模自治体において議会活動に専念することは相当な困難。

・議員の成り手不足における大規模自治体の課題

大選挙区制が採用されているので、比較的少ない票数で当選が可能。

有効得票数 ÷ (選挙区定数+1) +1 票で当選するが、実際にはもっと少ない票数で当選する。

よって、定数が大きいほど特定の問題（子育て、図書館、障がい者など）に注目した議員も当選しやすい。

政令市では中選挙区制。

政令市でなくても、人口規模が大きいほど政党化する傾向。

政党化すれば、有権者は政党の提示する政策を手掛かりにで、選択の幅は絞りやすくなるが、特定の問題を取り上げる候補者は当選が難しくなる可能性が高い。

さらに政務活動費の存在が、現職にとっては圧倒的有利となる。

大規模自治体ほど広報費に多額を支出する傾向＝現職議員は議会での実績を有権者に広く知らしめることができる。

新人候補は、そのような機会もお金もないため、圧倒的不利で参入しにくい状況となる。

2017 年に行われた女性地方議員を対象としたアンケート（内閣府男女共同参画局）でも「知名度がない 57.5%」「選挙資金の不足 28.7%」との課題が明らかになっている。

濱田 真里

・地方議員に対するハラスメントの現状

立候補検討中、または立候補準備中（無党派議員は女性が多い）にハラスメントを受けた人は、全体の 61.8%、男性の 58%、女性の 65.5%。

議員活動や選挙活動中に、有権者や支援者、議員などからハラスメントを受けた人は全体の 42.3%、男性の 32.5%、女性の 57.6%。

・議員活動や選挙活動中に受けたハラスメント

- ・ 性的、もしくは暴力的な言葉(ヤジ含む)による嫌がらせ
(女性 26.8%、男性 8.1% 男女で性別ギャップあり)
- ・ 性別に基づく侮辱的な態度や発言(女性 23.9%、男性 0.7%)
- ・ SNS、メール等による中傷、嫌がらせ(女性 22.9%、男性 15.7% 男も多い)

④身体的暴力やハラスメント(女性 16.6%、男性 1.6%)

⑤年齢・婚姻状況、出産や育児などプライベートな事柄についての批判や中傷(女性 12.2%、男性 4.3%)

・有権者からのハラスメント→街頭演説、不審な電話、住所公開によるプライバシー侵害、つきまとい、ストーカー、SNS での誹謗中傷、罵倒や叱責

1324 件の事例を基に作成した動画

【全体版】政治分野におけるハラスメント防止研修教材内閣府男女共同参画局公式 YouTube

<https://www.youtube.com/watch?v=PjLN17TKmwY>

・有権者からのハラスメント

街頭演説、夜中などの不審な電話、住所公開によるプライバシー侵害、つきまとい・ストーカー、SNS での誹謗中傷、罵倒や叱責、票ハラに対しては、アメリカなどでは第3者の介入（そばに一緒に立ってくれる人の存在が必要とされている）。

国会議員は公設秘書がいるが地方議員は一人もおらず一人で対応するしかない。

・ハラスメントに関する条例制定

特別職を含む職員・議員によるハラスメント 狛江市（中立であり透明性のあるハラスメントフロー）、五戸町、池田市、曾於市、大和市

特別職の職員・議員によるハラスメント あさぎり町、

職員によるハラスメント 川越市、忠岡町、七戸町、東松山市、世田谷区、中間市、三股市、愛別町、吉野川市、四日市町、えびの市、恵庭市、築上市、蔵王町、松茂市、人吉市、本巢市、柏市、洲本市、八頭町

特別職を含む職員によるハラスメント 牛久市、山都町

一般職職員等によるハラスメント、有権者から議員や職員になろうとする者に対するハラスメント（票ハラメント）福岡市（初、画期的なもの）、大阪府、利尻村

政党でも公認を得るまでの間はブラックボックス
相談体制や議会内のルール作りが重要

女性議員が増えない理由は、
カッコいいと思わない

やりがいがない

セカンドキャリアがない

女性議員からの課題

住所公開が怖い、旧姓使用が出来ない

議会に女性が入っても声が届けられない

出産と選挙が両立出来ない

ハラスメントなどでストレスを感じる

発言阻止もハラスメント

田中常郎 北九州市議会議長

投票率低下への取り組み、自称議会改革の一方的宣伝として、北九州の宣伝はしていたが、発言の中身も薄く、このシンポジウム登壇者としては不適格で、かわいそうであった。

・北九州市議会の取り組み→カフェトーク in 北九州、北九州市における議員立法、子ども基本条例検討会、議会に対する理解と関心の向上→ドリームサミット(中学生会議) 平和のまちスタディーツアー ～議会棟視察～

26 日 9:00～11:00 課題討議「議員の成り手不足問題への取り組み報告」

コーディネーター 大正大学共生学部公共政策学科教授 江藤 俊昭

報告者 登別市議会議長 辻 弘之

一般社団法人 WOMAN SHIFT 理事・目黒区議会議員 たぞえ麻友

枕崎市議会議長 永野慶一郎

江藤：

<統一地方選挙における地方政治の現状>

- ・政治の劣化は進んでいる。

投票率は、一部の例外(一般市の首長選挙)を除いて過去最低となっている。

無投票当選も深刻化した。

道府県議会議員選挙では無投票当選者率 25.0%(前回より縮小 市長 28.4%、区長 9.1%、市議 3.6%、町村長 56%)、町村議会議員選挙 30.8%、となっている。

立候補者が定員を下回る「定数割れ」が続出した。

前回(8町村)の 2.5 倍となる 20 町村に上ったことも今回の統一地方選挙の特徴だ(滋賀県日野町定数 14、東京都瑞穂町定数 16、長崎県長与町定数 16 は、法定得票数未満で欠員が生じた)。

なお、新たな傾向もみられた。

女性議員割合が増加し過去最高となった(道府県議会議員選挙では 14.0%、市町村議会議員選挙では 22.0%、町村議会議員選挙では 15.4%。50%超えは白井市、宝塚市、52.1%の杉並区、50%は忠岡町、長野県朝日村、奈良県三郷町、日進市、武蔵野市)。

このように、女性議員当選者率は増加しているが、いまだ半数には程遠い。

*地方政治を見る視点：政治の劣化だけではなく政治の台頭(議会改革等)。

後者を活用し前者を克服する視点を！

<議員のなり手不足は住民自治の劣化を招く(無投票当選のみが問題で

はなく、民主主義自体への問題）——なり手不足（女性・若者が減り、投票率も低下）の問題を再確認する＞

投票率の低下（市議会 45.6%、町村議会 59.7%：2019 年）も併せて、これは民主主義の機能不全。

- ・ 政策競争の欠如、地方分権改革、地方財政危機に伴い、地方行政と共に地方政治が重要となっている。

地方政治には、政策競争が不可欠で、無投票はその機会を奪う。

- ・ 有権者意識の危機。

有権者にとって、政策型選挙ができず、また議員の 4 年間の活動の評価ができない。

住民の主権者意識が侵食され、弱体化する。

- ・ 議会の危機。

無投票当選は、性別（男優位）、年齢（高齢化）などの偏りを促す（市議会の場合 60 歳以上 57.2%、女性 17.8%、専業 47.5%：2022 年。町村議会の場合 60 歳以上 77.1%、女性 10%、専業 22.8%：2019 年）。

議会の存在意義は、多様性を踏まえた公開と討議にあり、多様性に基づいた討議空間なので議会権限は大きい。

にもかかわらず、存在意義であるその多様性を侵害している。

辻：

課題先進地 北海道

女性が働けない在宅看取り→人が住まない北海道への危機

合計特殊出生率全国ワースト 3 位、特定健康診査受診率全国ワースト 1 位、一人当たり医療費ワースト 1、在宅看取りワースト 1、潜在的労働人口（女性全国 1 位、男性全国 3 位）、実質公債費比率全国 1 位、2025 年には自治体の半数が人口 5 千人未満になると予想されている。

成り手不足は過去の先輩たちが招いた現象であるが、す。それを解決するのは我々現在の議員。

視界が人を育てない、5 期目であっても排除されるなどの原因がある。

だが、成り手不足が解消され、議会が人気になると、当選が遠ざかってしまい、自分の首を絞める行為ともなる両刃の剣でもある。

北海道新聞全国市町村議長アンケートによる成り手不足の原因は、無関心無理解 45%、報酬 33%であった。

議員報酬については、札幌以外の道内 26 市では、報酬と定数超過数の相関係数は 0.59、定員に対する候補者数の競争倍率では 0.33。

定数が多い方が、立候補者は増える。

客寄せパンダであっても、議会・議員が面白いと思われるものであれば増える可能性はあるが、安芸高田市議会のような市長と議会が対立し、決算が議会承認得られないことを続けるような議会（予算も修正がかけられ続けている）で見ると、2020 年の市議選投票率は 63.19%で、前回の 48.16%より上がってはいるものの、立候補者は定数 18 に対して 16 人と多いとは言えない。

登別市議会では、大学教授、企業経営者、首長、住民、元道選管、議員らが講師となり、運営委員は道内市長議員、大学教員、同町職員など 8 名で運営する、未来への種まき研究会（地方議員養成講座：議員を育てる取り組み）を開講。

課題解決の方法として地方議員があることを伝え、統一選では 30 人＝60%が立候補し、20 人が当選した。

たぞえ：

若手女性議員のネットワーク & ママの議員インターン

ミッションは、「届きづらい女性の声を政治につなぎ、1つずつ実現していく」。

・3つの課題

- ・ そもそまなろうと思わない（一度なるとやめられない）、
- ・ なり方を知らない（政策のつくり方、選挙手法）、③なってもやめてしまう（家族の反対もある。 女子大などで説明会も行った）

・ 女性の声を政治につなげるために

その前の課題はの解消として、①住所公開が怖い、旧姓使用ができない→総務省へ提言（2020年7月13日高市早苗総務相へ提言し、17日に通知発出）し、その通知をもってそれぞれの自治体選管へ要望、②議会に女性が入っても声が届けられない→誤解の暗黙のルールを学び合う、ワークショップの開催（議員向け）、③「昔ながら」ではない、20～40代の若手女性の声が拾いづらい→「ひろげよう！ママインターンプロジェクト」を通じたインターンの募集（議員と市民ともが参加することで、学びや活動の機会の提供を議員が、情報や活動のサポートを市民が行い、双方に非常に良い効果を生んでいる。）、④出産と選挙が両立できない→出産直後の選挙についての事例をnoteで公開（どなたでも）、⑤県単位で女性議員が少なくて繋がれない→鳥取町村議会で女性議員向けの研修会を実施（議員向け）

永野：

2015年9月初当選4期目で、現在も会社員。

枕崎市議会は、2023 年 5 月 1 日より 4/12 名が女性（4/16→3/14→今）で、鹿児島県内で最も女性議員比率が高い議会（定数は最低）。

2019 年は無投票であり、この 4 年間は無投票選挙の克服をめざした。

直前までは定員割れの懸念もあり、若手候補希望者も家庭の都合で断念し、勇退を表明していた議員が届出締め切りの 2 時間前に引退を撤回して、定員と同数になった。

2021 年議長選挙に立候補して就任し、定数を論じる委員会を立ち上げる。

自ら先頭に立ち、新時代の議会づくりを目指すことを強く決意。

「議員定数及適正化及び議員報酬等調査特別委員会を設置、市民アンケートを実施（合奏数 1000、回答率 30.6%）したり、1 年間で 7 回の委員会を開催し、無帳票回避に向け定数減を決断（報酬はコロナ禍の状況を勘案し、現状維持）。

市議会に対する市民の声を聴くためのアンケート調査での回答率は 70 歳代、50 歳代、60 歳代の順に多く 30 歳未満が少なかった。

若者の議会への無関心が窺われる。

結果は、議員を減らすべきであるが 50%を占めた

議員定数は 10 人（市民の声が届かない）が妥当が 52%、12 人が妥当が 40%

報酬は、財政面から経費削減のため減らすべき、議員定数を減らしても、議会機能は発揮できるからとの回答が 94 人、議員数を少々減らしても、議会機能は発揮できると思うが 103 人、地域の代表として一定の議員数は必要である 67 人、市民の声を反映させるために必要である 56 人だった。

現在の報酬額（27 万 5 千円）では議員を目指そうとは思わないのが一番多く 43%となった

議員として市民のために頑張りたいと思う割合はわずか 13%。

たかひら：

これは議員の仕事を市民に理解してもらうことを怠っているからではないのか？

毎議会、各議員が報告会や市政報告などを 4 年間行っても、同じ回答となるのか？

2024 年の開催は、10 月 9 日～10 日、盛岡市の岩手県民会館（トーサイクラシックホール岩手）と決定し、盛岡市議会の皆さんがご挨拶されていた。

にじの会では、日当 1300 円を請求しておらず、今回の旅費も新幹線よりも安価であるピーチで福岡空港を経由して小倉駅に向かった。

8 時関空出発の便では、中川剛幹事長、樽谷庄道、蓮池陽佑の貝塚維新市議団と隣り合わせとなったが、先輩議員にも挨拶しないと言われていた樽谷は、私に対しても挨拶せず、早く着きすぎる便で出発することを「これしか取れなかった」と話した。

機内でそれ以上の会話はなく、降機の際も何らの挨拶もなかった。

会場等でも会う機会はなく、田畑議員や他の貝塚市議らも会わなかったと言っていたため、後日、岸和田市貝塚市清掃組合議会で会った際、先輩議員にも樽谷だけが挨拶しないことについて注意した。

本市議会より松本妙子議長、高井事務局長、昼馬議員も参加し、4 人

とも同じ西鉄イン小倉の宿泊であった。

大浴場で全国の議員と顔を合わせるのはいとしても朝食会場のバイキングでは、大勢の議員が詰めかけ、満席状態が続いており、次回参加するならば、指定ホテルでない方がゆっくりできるのではないかと思わせた。

会場からの質問ができる場もあったが、挙手に出遅れ、質問ができなかった。

初日夕方には歓迎の立食パーティーもあり、岩村龍男水俣市議会議長と知り合い、「観光誘致の妨げになっている水俣病患者は水俣から出て行け！」と言われたり、自ら手が震え、熊本大学医師団などからも水俣病と考えられるので、受診を勧められても、自分が患者を差別してきていたので、患者と診断されれば、自分も差別されると恐れて受診できないといった水俣のクウキなどについて話をした。

北九州市議会も見学に行ったが、議会棟のガードマンは服装で人物を判断し、スラックスからジャージに着替えていた私に対してアポがあるのかと執拗に尋問をした挙句、「帰れ！」と言い放ったので、議会事務局を呼ぶよう要請し、2Fより降りてきた事務局職員と話をする、2Fの議会図書室、議会などを案内してくれたが、写真撮影は許可されなかった。

図書室は政令市だけあって、司書が常駐しており、本市4Fの図書室のエアコンが壊れているせいで、常時施錠されており、議員はおろか市民すら入室しにくく、室内も古い紙ごみのような資料ばかりであることと比較すれば、雲泥の差であった。

議員用の机はあったが、大阪市のように個室化されてはおらず。

議会にモニターはあるも、PC をつないで資料を映すものではなく、発言残り時間を映す程度のものであった。

松本清張記念館を再訪したかったが、月曜でもないのに休館していたのは残念。

北九州市立図書館で階段状の書架を回り、雰囲気味わって小倉駅まで歩くと、工藤会を壊滅させる勢いの垂れ幕が、小倉北署の壁にかかっていた。

さすが小倉である。

2022 年に 2 度の火災があった旦過市場では、焼け落ちた瓦などが放置されている場所もあり、仮設店舗から元の通りへと店舗が戻り、商店街に空地がなくなるのはもう少し時間がかかると思わせる。

小倉昭和館が再び開館したのは、12 月 19 日であり、ほぼ外観などは出来上がっている状態であったが、上映などは行っておらず、全国のミニシアターの代表的存在の息吹だけを感じることはできたが、実際にシートに体をうずめて、上質な自分に突き刺さる作品を見たいものだ。

福岡空港では、高島宗一郎福岡市長の著作が山積みであり、ここでも福岡を感じさせた。

JAL、ANA とともにラウンジから手荷物検査のファストトラックを設置していたが、ピーチ搭乗では利用できず、一般の列に並んだ。

羽田空港は言うに及ばず、伊丹空港でもファストトラックは設置されていて、利用すると搭乗ロビーへスムーズに向かうことができる。

コロナ禍を過ぎて、空港に向かうと、コロナ禍でのガラガラな状態とつい比べてしまい、混んでいると感じる。

そんな体感とは別に数字上でも近年、福岡は人の集まる街となっている。

しかし、ハードはそのようにつくられてはいないため、例えば博多駅で朝のラッシュの時間に降車すれば、階段口に向かって人はあふれかえる。

毎朝、このような行列に並ばねばならないならば、利用客は朝で疲れが蓄積するのではないか。

無論、博多のベットタウンだけでなく福岡市内も混雑している。

市営地下鉄七隈線が 2023 年 3 月末に天神南から博多駅の区間が延伸開業したことで、西区からの利用客が増加。

現在の 84 両＝21 編成、17 本/毎時、ピーク時混雑率 130%を緩和するため、2026～2027 年度に 4 編成＝16 両を増備する予定。

これで 21 本/毎時、115%に改善されるとしている。

空港線も同じく増便を計画していて、2025 年 3 月には 20→21 本/毎時、130→125%になると試算している。

更に七隈線の福岡空港国際線ターミナルまで延伸、橋本駅と空港線の姪浜駅間の延伸も予定されている。

それでも今後の人口増に伴い、地下鉄の利用者は年々増加すると見込んでおり、本市や南大阪 9 市 4 町にとっては羨ましい話ではある。